

令和5年度 事務事業評価シート（1）

[令和4年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	骨髄移植普及促進事業			事業番号	011-261
担当部署名	健康福祉	局	保健所	部	保健医療 課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	—	施策	—
		寄与するKPI	無	取組の方向性	—	—	—
			有・無	指標名	—	—	—
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	ターゲット	—
		寄与するKPI	無	取組	—	—	—
			有・無	指標名	—	—	—
無	現状値	—	目標値	—	—		

2	関連計画				
3	事業開始年度	平成 29 年度	点検対象年度	令和 7 年度	
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律			

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、NPO			
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	堺市民（特に18歳以上54歳以下の骨髄ドナー登録が可能な方をはじめとする市民）	対象数	単位	
			令和4年4月1日総人口 817,441	人	
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	広く市民に対し、骨髄移植への理解を深め、ドナー登録協力への意識を醸成するとともに、ドナーが骨髄を提供しやすい環境整備を行う。			
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	骨髄移植は、白血病等の血液疾患に対する有効な治療法の一つであるが、骨髄移植には患者さんとドナーのHLA型（白血球の型）の適合が必要であり、適合率は、非血縁者（他人）間では数百～数万分の1の確率で、かつ、適合した場合であっても、ドナーの方々の様々な事情等により、実際に移植を受けることができる方は約6割に留まっている。こうした状況をふまえ、協定先であるNPO法人関西骨髄バンク推進協会をはじめ、大阪府や日赤、学生等との協働・連携を強化しながら下記事業に取り組む。 ① 骨髄移植の理解促進（普及啓発イベントの実施等） ② ドナー登録者増加のための取組み（献血併行型ドナー登録会の効果的実施） ③ ドナーが骨髄等を提供しやすい環境の整備（骨髄ドナー支援金事業の実施）			
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	①国・府が未実施である骨髄ドナーに対する支援金事業（通院5千円/日、入院2万円/日（上限14万円））を実施 ②ドナー登録や普及啓発等を積極的に推進するため、NPO法人と協定を締結			
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）	骨髄ドナー			
10	公民連携・協働事業	NPO法人、大阪府、日赤、市民、学生等と協働し、普及啓発イベントやドナー登録会の実施			

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

11	成果指標(目的の達成状況を測定)	単位	実績	令和3年度	令和4年度	目標	目標	
				令和5年度	令和7年度	点検対象年度		
				目標値	275	400	400	500
				実績値	399	366		
12	活動指標(成果を上げるための手段)	単位	実績	令和3年度	令和4年度	目標		
				令和5年度				
				目標値	32	60	60	
				実績値	60	52		
11	当該指標を選定した理由	ドナー登録者が増えるほど、骨髄移植を必要とする患者を多く救うことができ、また、骨髄移植に対する市民理解度を測ることができると思われるため						
		目標値の設定根拠・算出方法 新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、令和3年度実績と同程度の目標値を設定						
12	当該指標を選定した理由	ドナー登録を効果的に増やすには、献血と併せて実施する登録会を増やすことが有効であり、また、登録会は普及啓発の場でもあるため						
		目標値の設定根拠・算出方法 新型コロナウイルス感染症の状況をふまえ、令和3年度実績と同程度の目標値を設定						

令和5年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	骨髄移植普及促進事業	事業番号	011-261
-------	------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和5年度	
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算	
事業費 (a)	2,272	2,760	2,017	1,187	2,799	
13 財源内訳	国支出金		0		0	
	府支出金		0		0	
	市債		0		0	
	その他 (寄附金、基金繰入金)	2,124	2,759	2,000	1,174	2,782
	受益者負担金(使用料、手数料等)			0		0
	一般財源	148	1	17	13	17
14 人件費 (b)	820	820	820	820	810	
15 年間経費(c)=(a)+(b)	3,092	3,580	2,837	2,007	3,609	

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源
	R5 予算	1,000	0	R5 予算	92	0	
基金積立	R4 決算	724	0	使用料及び賃借料	R4 決算	0	0
	R5 予算	1,000	0		R5 予算	350	0
通信運搬費	R4 決算	2	2	委託料	R4 決算	0	0
	R5 予算	11	1		R5 予算	300	0
旅費	R4 決算	2	2		R4 決算		
	R5 予算	6	6		R5 予算		
需用費 消耗品費	R4 決算	9	9		R4 決算		
	R5 予算	40	10		R5 予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和3年度	令和4年度
		① 献血併行型ドナー登録会での新規登録者数	人
② 上記①にかかる年間経費	千円	3,580	2,007
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	8,972	5,484
備考 (算出についての説明等)			

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 骨髄移植に係る普及啓発活動やドナー登録会については、NPO法人や日赤等との協働により実施するとともに、事業経費の大部分を占めるドナー支援金については、寄附金を原資としているため、費用対効果は高い。
令和3～4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ドナー登録会の開催が十分にできなかったことや、寄附金による収入が減少したが、同感染症が令和5年5月8日から5類感染症に位置づけられることにより、企業での併行型ドナー登録会の再開による骨髄ドナー登録者数の増加等が見込まれ、今後は費用対効果はさらに高くなると考えている。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19 コロナ禍により、普及啓発活動が様々な制約を受ける中、一定の新規ドナー登録者数を確保するとともに、ドナーが骨髄等を提供しやすい環境整備の一環として、クラウドファンディングを活用したドナー支援金事業を開始したことにより、市民の骨髄移植への理解促進とドナー登録協力への意識の醸成に寄与したものと考えます。